

## 第5回苫小牧市中小企業振興審議会要旨

1 日 時 平成28年4月20日(水) 13:30~14:40

2 場 所 職員会館304号室

3 出 席

(1) 苫小牧市中小企業振興審議会委員

秋山委員、石黒委員、岩佐委員、上木委員、川島委員、竹谷委員、坂本委員  
伴辺委員、中條委員、西川委員、丸山委員、吉川委員、渡辺委員

(2) 事務局(市)

望月産業振興室長、桜田企業立地推進室長

商業振興課：河本課長、由利主査、銅主査、五十嵐主事

工業労政課：加賀谷課長、田嶋主査、廣川主事、佐藤主事

4 会議内容

(1) 開会

(2) 議事

新委員の苫小牧金融協会推薦 苫小牧信用金庫石黒委員の紹介

① 部会及び勉強会の報告等について

▽委員(創業促進部)

- ・2月3日に創業促進部会を開催した。
- ・部会では中小企業実態調査の項目について最終調整を行った。
- ・中小企業振興計画(案)の策定について、計画の進め方や予算との関連性、既に実行している計画の中で参考となるものなどの意見交換を行った。

▽委員(人材育成・事業承継部)

- ・2月3日に人材育成・事業承継部会を開催した。
- ・部会では中小企業実態調査の項目の検討を中心に議論した。
- ・調査の設問項目が回答者にとって適切な表現となっているか、また、回答者が適切に回答できるか等の文言整理を中心に話し合った。

▽委員(販路拡大・需要開拓部)

- ・2月3日に販路拡大・需要開拓部会、3月22日に任意の勉強会を行った。
- ・販路拡大に関するアンケート結果について話し合った。
- ・支援策の利用の希望について、1番多かったのが商品サービスPR支援7社、次に展示会の出展経費の助成6社、次に商品サービスの開発支援と展示会出展等の助成という結果だった
- ・それに関して、販路拡大に関する施策の類似施策を調査した。
- ・類似施策の調査結果により助成制度が多数あるのになぜ活用しないのか、という議論を勉強会で行った。
- ・その理由については、制度の周知が足りない、補助金申請は仕事の片手間ではできない、サービス業の生産性を高める制度がない等の議論があった。
- ・その結果、実態を知る必要性があるという結論に至り、さらにアンケートを行うことになった。
- ・前回の調査で、協力して頂けるという23社へ再び調査を行う。

- ・調査内容は、販路拡大に関する補助等の施策を知っているか。また、知っている方はどのように知ったのか。利用していない方はなぜ使わないのか。
- ・調査内容は、今日の部会等で再度詰めていく。
- ・アンケートと併せて、北海道産業振興財団の助成、小規模事業者持続化補助金、苫小牧市立地企業サポート事業の資料を同封する予定。

○各委員からの意見等

▽委員

- ・販路拡大・需要開拓部会の補助金に関するアンケートについて、どのようなメニューが必要かという点の詳細について調査するという点か。

▽委員（販路拡大・需要開拓部）

- ・それもある。また、周知方法が今のままで良いのかということも確認したい。補助制度等は、同じ企業が手を挙げてくる傾向にあると思うが、手を挙げなかった企業は知らなかったのか、使えなかったからなのかをはっきりさせたい。

## ②中小企業振興計画（案）について

▲事務局

- ・平成25年4月に中小企業振興条例が施行されており、中小企業の振興に関する施策を総合的に策定し推進すると謳っている。
- ・本市では、他市の振興ビジョン、中小企業振興施策等の調査、検証を行った。その結果、中小企業の振興については具体的な方向性を示して、5年から10年の指標を定めて進捗管理を行っていく、中小企業振興計画（案）の策定が必要であると考えている。
- ・本市の中核となる総合計画では、「活力ある産業と賑わい」を目標としている。その産業を中小企業に細分化し、「中小企業の振興により中小企業が生き活きと躍動し市民にとって豊かで暮らしやすい街を実現する」という目標を本条例で謳われている。その目標を実現するため、中小企業振興計画（案）を策定しようと考えている。
- ・中小企業を取り巻く現状及び課題等を浮き彫りにした後、支援する方向性を定め、具体的施策を実施していくことが必要と考えている。
- ・例えば、振興計画やビジョン等における知識のある方にお越し頂いて、審議会等で説明等して頂くことも、計画の策定にあたり参考になるものと考えている。

▽委員

- ・計画の素案は全体的なもので5つの柱があり、審議会では3つの部会がある。今後どのように進めばいいのか。

▽会長

- ・振興計画（案）では、条例を踏まえて5つの柱とするか、また、組み替え作業が今後必要になってくるのか等を含めて色々発言してほしい。

▲事務局

- ・今後の部会では、課題の解決方法について議論をしてほしい。既存事業や新規の支援策などを協議して、審議会でもブラッシュアップしていく形を考えている。

▽委員

- ・中心商店街という括りと商店街という括りの違いは何か

▲事務局

- ・中心商店街というのは駅前を中心としたもの。市で行っている中心商店街の活性化事業の中には、空き店舗補助金等の事業がある。また、中心商店街以外にも商店街があり、商店街の活性化事業として、別な事業も設けている。

▽委員

- ・例えば、他にどこの商店会があるのか。

▽委員

- ・音羽町には昭和通り商店街振興組合、住吉町には北中央通り商店会、花園町、見山町には花見商店会、桜木町には桜木豊川商店会、糸井には糸井商栄会がある。また、ときわ町、澄川町に新たな商店会が設立された。

▽委員

- ・苫小牧市中小企業振興計画（案）を作るにあたって、中小企業振興審議会及び3部会でその内容を話し合っ、それを参考に市は策定していくという理解で良いのか。

▲事務局

- ・そのとおり。

▽会長

- ・では、今後振興計画（案）をより具体的に進めていく。今後のスケジュールはどうか。

▲事務局

- ・あくまでも目処だが、今後は、審議会及び行政において、対象とする業種や支援する方向性、具体的な振興施策など計画の内容について、来年の3月まで約1年かけて詰めていく。
- ・同時に中小企業支援施策の把握ということで、平成28年度に庁内各部署の内部調査を行う予定。
- ・第3期審議会の平成29年6月頃に振興計画（案）の骨子案を、改めて審議会に諮問。その後、約6ヶ月かけ審議会において審議後、市へ答申という流れになる。
- ・目処では平成30年度頃に中小企業振興計画（案）を策定。

(3) その他（資料の説明等）

▲事務局

- ・資料1は本市の多くに従事している業種であるサービス業、卸売業、小売業、飲食業の詳細について取りまとめたもの。
- ・資料2は前回の審議会、部会で協議して頂いた中小企業実態調査の完成版で、4月1日付で市内中小企業、中小事業者2500社を対象に調査し、うち102通が宛所無し等で調査できなかった。4月19日現在では、397件の回答があった。
- ・回答率を上げるため、パソコンによる電子回答も可能としている。
- ・6月審議会ではある程度まとめたものをお渡ししたい。

- ・ 5月に新規創業セミナーを実施する。

(4) 閉会

- ※ 審議会終了後、創業促進部会、人材育成・事業承継部会、販路拡大部会がそれぞれ開催され、14時40分～15時45分頃まで行われた。